

1. 「ゆるキャラを活かした街の活性化と地域の絆作りについて」

まず、大項目 1 点目、「ゆるキャラを活かした街の活性化と地域の絆作りについて」質問致します。

ゆるキャラにつきましてはご存じの方がほとんどであるとは思いますが、定義を申し上げますと、「ゆるいマスコットキャラクター」の略で、イベント、各種キャンペーン、村おこし、名産品の紹介などのような地域全般の情報 PR を行うものです。なお、一般的に「ゆるキャラ」の提唱者は、みうらじゅん氏と言われておりますが、彼が言うには、「ゆるキャラ」として認められるものは次の三条件を満たしていなければなりません。①郷土愛に満ち溢れた強いメッセージ性があること。②立ち居振る舞いが不安定かつユニークであること。③愛すべき「ゆるさ」を持ち合わせている事の 3 つです。

数年前から、こうした条件を満たしたゆるキャラが多く誕生しておりまして、非常に人気もあることはご存じの通りです。いまや地方自治体のみならず、商店街単位でも生み出されております。また、それらが地域へもたらす恩恵も大きなものがあることも知られています。最も有名なキャラクターの一つとして、彦根市の「ひこにゃん」がおりますが、2010 年の彦根市への経済効果は 228 億円、グッズ販売でも 8 億円と言われております。また、最近人気の熊本県のキャラクターである「くまもん」についても、グッズ販売で売上 10 億円を突破したと聞いています。

さらには、そうしたゆるキャラが一堂に会する「ゆるキャラまつり in 彦根」なども行われ、大々的にメディアで放送され、その地域の PR となったところです。なお、このゆるキャラまつり in 彦根には、兵庫県のはばタンをはじめ、豊岡市の玄さんや猪名川町のいなぼうなど、兵庫県からも多くのゆるキャラが参加をしております。去る 11 月 27 日には人気投票結果も発表され、1 位が熊本県のくまもん、2 位が今治市のバリィさんとなり、その前後にはテレビをはじめとした数多くのメディアに登場し、各地域は費用を用いることなくアピールができました。

さて、そうしたブームの中、加古川市においても、昨年ウェルピーが着ぐるみ化されました。また、かつめしを PR するためのキャラクターである、かつつんとデミーちゃんもおります。どちらも市民の皆さんに非常に人気だと聞いています。しかし、私個人の感覚ですが、先日のツーデーマーチのような大きなイベントでは見かけるのですが、他のイベントではあまり見かけないように思います。これは非常にもったいないように感じています。

例えば、先ほど名前を挙げた「くまもん」については予定も公表されているのですが、11 月で 80 以上の予定が入っております。県のキャラクターなので広域で活動している点を踏まえても、かなりの数です。行き先についても、お祭り等のイベントはもとより、幼稚園や保育園、小学校から老人ホームまで多岐に渡っております。これは、キャラクターの幅広い人気を示しており、地域への浸透具合も高いことが分かります。また独特の体操もあり、子どもたちの多くは踊れるそうです。

私はその話を聞いたとき、子どもから大人まで、そのキャラクターへの愛着から地域や故郷を思う心が育まれていると感じました。これは、ゆるキャラの前提である郷土愛にも合致し、体現しているところです。同時に、わが市でもキャラクターがいるのだから、これを使わない手はない

と思われました。

ゆるキャラの効果としては、地域をPRし経済効果をもたらすことが挙げられますが、もう1点無視できない効果として、キャラクターへの愛着から郷土愛が深まるという点があるのです。それらが車の両輪のように相互に影響しあっているのです。

そうした観点から、質問を致します。

まず1点目。ゆるキャラが地域にもたらす効果について、そもそもどのような所見をお持ちでしょうか。

2点目。これまで行政として、キャラクターの管理や運営、サポートはどのようにされていたのでしょうか。

3点目。加古川市のキャラクターについて、実際、どの程度の頻度で出動しているのか。また、大きなイベント以外で、例えば幼稚園や保育園など地域への出動はあるのかどうか、伺います。

4点目。経済効果の点から、グッズ販売について、かつん・デミーちゃんのグッズは駅前のかつめしラボで販売されていますが、ウェルビーのグッズについては正直なところ見たことがありません。グッズ販売について、今後のお考えをお聞かせください。

2.市ホームページの更なる活用について

大項目2点目は、市ホームページの更なる活用について伺います。

行政のホームページについては、日々充実が図られています。加古川市のホームページにつきましても、以前に比べてかなり見やすくなりました。逆に言えば、それだけホームページから情報を得る方が増えているということでもあります。更にスマートフォンの普及により、市情報取得のツールとしてのホームページの重要性は増すものと考えられます。こういったネットの世界という若者のものというイメージが付きまといますが、現実には高齢者も検索サイトから検索をかけて、例えば観光情報やスポーツ情報など手に入れています。固定観念を捨て、全ての市民に向けて、より高いネットサービスを提供していかねばなりません。

そうした観点から、私は市ホームページに、地域イベント情報を紹介するページを追加できないか提案します。

先日、ある地元企業さんが主催されたイベントに一般客としてお邪魔しました。非常に盛況だったのですが、その背景には、新聞折り込みを行ったり、お客さんにチラシを配ったり、ネットで広報を行ったりと、広報活動に非常に苦労されたと聞きました。

また他方で、市民の方が、休日に加古川でどこかに出かけようと思っても、どこで何のイベントがあるのかわからないという声もいただきました。

私は、この2つの意見を聞き、市ホームページで双方がマッチングする場を設ければ、双方にメ

リットがある上、市にもメリットが生まれるのではないかと考えました。

業者はより広い周知によりイベントの集客向上が見込めますし、市民は情報を得られ、加古川市内で楽しむことができます。

市は、市民サービスの向上、イベントの集客向上による地域活性化、また市内での消費行動促進による経済効果も見込めます。

もちろん行政が何かしら関わっているイベントは、加古川市ホームページのトップにイベントカレンダーとして表示されていることは存じていますが、民間のものと合わせることで、普段はそこまで加古川市ホームページを見ない方呼び込むことができ、市政情報を提供する機会が増えます。また市外の方が加古川に来られた際には、情報を得る手助けにもなります。そこから消費が生まれる可能性もあります。

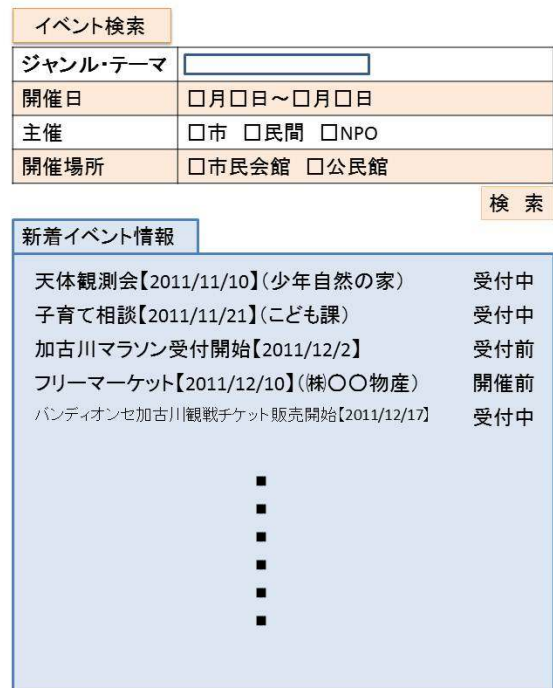
このように、メリットは多くあるのです。

さて、具体的な案を申し上げますと、→イメージ図参照

イメージ図①



イメージ図②



(図①) まず、加古川市ホームページのトップ、左側にある施設予約などの下に、イベント情報ページへのリンクをバナー形式で貼ります。そして、そこからイベント情報ページへと飛ぶようにします。

(図②) イベントについては、申し上げたとおりの市のものはもちろん、民間事業者のもの、公民館事業、NPO 主催のものなどを網羅します。

新着から表示しますが、検索をすることにより、日や場所、ジャンルなどニーズにあったイベン

ト情報を手に入れられます。

興味を持った情報をクリックすれば詳細情報が表示され、そこから予約などが必要なものはリンクを貼って、情報元のページに誘導するようにします。

当然ながら、行政以外の掲載母体については審査を行います。

このアイデアを練るにあたり、他自治体で同じような事業がないか調べたところ、厚木市のマイタウンクラブという事業に出会いました。厚木市は更に進んだ形で運営されています。少し紹介させていただくと、イベントについては私が先に述べたものと似通ったものですが、他にそこから図書館の蔵書予約・施設予約・地域のお店情報、そして登録会員での SNS まであります。地域情報はもとより、市民で交流までできるようになっているのです。なお、ID は 13 万あり、月間 PV 数は 15 万 PV に上ります。厚木市の人口は 22 万人程度なので、かなりの利用数であることがわかります。参考までに、加古川市のホームページの月間 PV 数は昨年度で 5 万程度です。ある意味、マイタウンクラブは、市民生活の豊かさに関わる市民向けサービスを統合した独立地域ポータルサイトのようなものになるわけですが、トップページには、市のトピックスも出るようになっており、そこから厚木市 HP に誘導する仕組みにもなっています。

お話を聞いたところ、特に問題なく運営できているということでした。

厚木市のようにできないまでも、うまくいっている前例があるわけですし、前述しましたようにメリットも多く見込めることから、加古川市でも地域イベント紹介ページの設置を提案致しますが、ご所見をお願いします。

答弁

【地域振興部長】

現在加古川市においては、ウェルピーとかつつん・デミーちゃんの2つのゆるキャラが存在しています。ウェルピーは、市民の皆さんがウェルネスでハッピーになるようにとの願いを込めて、かつつん・デミーちゃんは加古川名物かつめしが市内外へ普及するようにとの願いから生まれました。

ゆるキャラに対して愛着をもつことは、そのキャラクターの体現する郷土の特徴に対する親近感と、キャラクターが伝えようとする理念への理解につながるものと考えます。

現在、それぞれのキャラクターは式典の補助や各種イベント等に参加することで、子どもたちをはじめ幅広い世代に PR でき、本市が進めるウェルネス都市づくりと、かつめしなどの食を通しての観光振興とともに PR 効果による町の活性化や郷土への愛着心も芽生えることで、地域の絆づくりの一助になっているものと考えています。

次に、これまでの行政としてのサポートですが、ウェルピーとかつつん・デミーちゃんを封筒や名刺、職員の名札に印刷するなど、広く PR しているところです。また、ウェルネス協会や観光協会においてホームページでキャラクターを PR するとともに、着ぐるみについては各種機関・団体の要望に応じて貸出も行うなど広く普及に努めているところです。

次にキャラクターの地域への出動についてですが、ウェルピーは平成 22 年 6 月以降これまでのところ 103 日の出動となっております。またかつん・デミーちゃんは平成 22 年 7 月以降 99 日の出動となっております。多くは市のイベントへの出動となっておりますが、幼稚園など教育機関への貸し出しや市民団体のイベント等にも広く活用されております。今後、より活躍の場が増えるよう PR していきたいと考えています。

次にグッズ販売についてですが、かつん・デミーちゃんについては加古川観光協会で啓発用に配布している他、加古川駅前のかつめしラボにて販売されております。さらに事業者等が作成するグッズに対して、事業者へキャラクターの使用許可を出すことで市内外へ加古川市を広く PR しております。

一方ウェルピーにつきましては、これまでツデーマーチなど市が主催するイベント等の記念品として作成していますが、より効果的にウェルネスなまちづくりを啓発できるウェルピーのグッズの活用方法について検討して参りたいと考えております。

【企画部長】

現在、本市のホームページ機能では、イベント情報を簡単に検索できる機能を持たせることは困難ですが、トップページにはイベントカレンダーというイベント等を紹介する項目は持たせています。ここでは市関連イベント情報を発信しておりますが、市関連以外の地域の民間事業者や NPO の情報につきましては、企業やサービス、イベント内容などの掲載基準を十分に検討する必要がありますので、現在のところ行っておりません。厚木市においても、市関連以外の情報についてはマイタウンクラブというウェブサイト由市ホームページとは別に構築し、運営しているということです。ちなみに、この 10 月の本市のホームページのアクセス数は約 83,000 件になっています。本市におきましては、広報かこがわのイベント情報の強化に努めるとともに、今後は先進市の事例も参考にしながら、イベントカレンダーの内容の充実を図るなど、ホームページのより良い活用について研究して参りたいと考えております。

再質問

Q: ゆるキャラの持つ効果について、地域の絆づくりの一助となっていると認識されているということでした。その中で、地域への出動について、ウェルピーが 103 日、かつん・デミーちゃんが 99 日ということでしたが、実際に市関連のイベント以外に出動した実績というものはどうなっているのでしょうか。

【地域振興部長】

ウェルピーの出動ですが、若干これも市関連になりますが、例えば加古川市の消防団の女性分団の方が、幼稚園の防災訓練で使用されているということがございます。また、加古川市民連絡協議会の場合は、ボランティアメッセというようなイベントでウェルピーを PR していただいています。その他、幼稚園が地域のお祭りや着ぐるみを使うなど、市以外でも活用いただいている状

況でございます。

Q: ご答弁いただきましたが、とはいえ実際のところ、そんなに多くはないのだろうと推察します。そもそもウェルビーが103日ということですが、今で12月に入るところなので、平成22年6月からすると400日以上経っているわけで、4日に1回くらいの割合です。かつん・デミーちゃんも同じくらいです。壇上で熊本県のキャラクターを紹介しましたが、月に80件、1日に2~3件の予定が入っています。県という広域で活動している点を勘案しなければなりません。よくお金がないと言われますが、その中でウェルビーを作ったわけです。それを考えた時に、この出動日数は少ないのではないか、やれば人気の出る営業マンなのにもったいないと思うわけですが、そのあたりの認識はいかがでしょう。

【地域振興部長】

確かに、出動回数が少ないと言われればそうかもしれません。今後ともPRをしていきまして貸出回数が増えるように、また市サイドもいろいろな場面で活用できればと思っております。例えばかつめしですと、先般のB-1グランプリとともに開催された姫路食博で、かつん・デミーちゃんがPRしたところでございます。その他、12月3日にNHKのBSプレミアムでかつめしを取り上げてもらうということもありまして、ここにはもちろん、かつんが出ていくということも予定されております。ウェルビーにつきましても、よりPRして市内外の方々に認識していただけるよう努力をしていきたいと思っております。

Q: わかりました。やっぱりせっかく作ったのになかなか見られないことは非常にもったいないことだなと、せっかく人気があるのですから。ですので、例えば市役所の入り口に何日かいるとか、ウェルビーが案内するとか、そういうことも含めていろいろ考えていただきたいと思います。また、地域への出動についても、そもそも知らない方が多いのではないのでしょうか。「かつん・デミーちゃん」は観光協会のホームページで貸し出しますよという風書いてあります。いろいろな規約の紙もついていますので団体さんもお存じだと思のですが、ウェルビーについては「貸してくれるんだ」ということを聞いて初めて知られた方も多いかと思しますので、そういったものを含めて考えていただきたいなと思います。

またグッズなのですが、正直なところ現状で出したところで、たぶん売れ残るだろうなという認識は持っています。というのも、もともとの人気はまだないからです。なぜなら、これかキャラができてからそれほどPRがされていないからで、それで人気が無いから売れないというリンクなわけです。だからこそ、まずは行政で力を入れていく。それで地域の子供たちとか、お父さんお母さんたち、そういったところから、例えばぬいぐるみが欲しいとか、そういう声が上がれば作ってあげれば良いと思います。それによって、また地域への思いとか、遠くに住まわれていてもグッズをつけることによってちょっと加古川を思うとか、そういったことがあるかと思えます。そのように、経済の面だけではなく、やはりそうした地域の絆づくり、最初のご答弁でもありましたけれども、これを樽本市長の中でも地域の絆づくりを大切にする、やっていくという施政方針でございますので、そういったツールをしっかりともう一度見直していただいて、より加

古川に愛着をもっていただくような、そういった施策、そういったものをもっともって考えて頂きたいと思います。

ホームページの方なのですが、現状なかなか難しいというようなご答弁でした。市以外のもの
で基準を決めるというのはやっぱりなかなか難しいものだと思います。現状、例えば何か消費するものがあつたとして、市のある意味責任で載せているわけですから、何かあつた場合にどうする
という話もあると思います。ですが、広告だと規定があるはずで、バナー広告とか。そういった形でバナー
広告とあわせて、そういった情報を広告基準と照らし合わせてやっていくようなことはできないものかな
と思うのですが、そのあたりの基準については如何でしょうか。

【企画部長】

バナー広告等については基準を定めております。ただ、イベントにつきましては、いろいろなイベントがござい
まして、表へ出てくる表面上のイベントなのか、商品等をそこから購入するようなイベントなのか、いろん
な規制がございますので、そこを細部にわたって市が責任をもってウェブに載せていくというのは非
常に難しいかなとは考えております。

ただ、これを他の団体、NPOとか観光協会とか、その辺が別のウェブサイト等を活用して立ち上げる
というのも一つの方法かなとは今のところ考えております。その辺のことも含めまして、今後研究して
まいりたいと考えております。

Q:わかりました。マイタウンクラブに関しましても、経緯を聞きますと、もともと市の方ではやはり市の
関連するイベントのみでやっていたと。もう一つ、商工会の方でホームページを持っていた。それをせ
っかくだったら一緒にしようよということで一緒にして、現在の形、独立させた形になったということ
ですので、先ほど部長答弁の中で、別のところで作ったもので独立させてというお話もありました
けれども、それであれば、例えば商工会もそうですし、NPO 団体、シーズ加古川さんとかいろ
いろ加古川でたくさんそういった団体があると思いますので、ぜひそういうところに声をかけていただ
ければいいなと思います。

やはり市民の方がせっかく加古川に住んでいるのに、小さいお子さんがいるとあまり遠くにはいけ
ないじゃないですか。そういったところで、近くにイベントがあるのなら、せっかくだから気分転換
も含めて出かけたなと思われる方は多いと思うのです。加古川で消費をしたいなと。また、外
から加古川に来られる方も、「加古川に何があるのかな」と、「かつめしだけですよ」というのであ
れば、昼飯を食べて姫路に行くとか、そういうことになるわけですね。それよりも何か、他にも
こんな所があつて、60 選とかやっていますが、そういった形でもっとリンクをさせるような、
一つ観光のツールとして考えていただきたいなと思います。

要望

そうしましたら、二つをまとめて要望を申し上げたいと思います。ゆるキャラも地域情報のホーム
ページにしても、私の基本の思いとしては地域にいらっしゃる方がもっともって、まずは加古
川に興味をもってもらいたいということです。そして、郷土を思う心ですとか、そういったも

のをやはりもっと小さい時から、そういった親しみやすいもので作り上げてゆく、これが必要だと思っています。

そうであれば、加古川に思い入れがあれば、将来例えば働いて東京に行ったとしても加古川に帰って来ようだとか、加古川にふるさと寄付金でもやってみようだとか、そういったところにつながっていくと思います。だから、やはり加古川を思う機会をもっと与えていただきたい。それにプラスして地域振興です。人をもっともっと集める。ゆるキャラにしても客寄せみたいな形で集客力のあるものですから、商店街にしても、地域のイベントにしても、もっと市からPRをしてゆく。ゆるキャラに関しては、「くまもん」もそうですが、市の方で独自にホームページですとかツイッターでこういうものに出動しますよとか、PRをしているわけです。そういったところで集客向上も求めてゆく。そういった形もやっておりますので、ぜひとももっとPRをしていくといったものを考えていただきたい。

ゆるキャラにしてもホームページにしても、結構お金がかかることはわかっています。それはやはり当然なのですが、ただ作るのにいくらかかるかもありますが、その後の経済効果とか、もっと広い視点で考えていただきたいと思います。取り返すように運営すれば良いですし、ペイできるものだと思います。

本当に行政にお金がないと、大変なご苦勞をされて、これから予算もあるわけですけど、やりくりされていることは理解しています。ですが、それではあまりに守りに入っているんじゃないかなというような考えも、ちょっと持つわけです。先行投資というものを民間ではやっていきます。じゃないと生き残れないという思いがあるからです。役所の論理というものはあると思うのですが、それだけじゃなくて、もうちょっと広い視点で考えていただいて、加古川市をもっともっと良くしていただきたいなど、我々もそれに対して提言をしていきたいなどそのように思っていますので、よろしくお願いします。